

# 浜 私 幼

横浜市幼稚園協会 協会報 No279

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行  
〒221-0055  
横浜市神奈川区大野町 1-25  
横浜ポートサイドプレイス アネックス 5F  
電話 045 (534) 8708  
<http://www.kids-yokohama.or.jp>  
編集 横浜市幼稚園協会広報部  
発行者 鈴木 浩  
印刷所 株式会社横濱大氣堂



## 協会長からのご挨拶

公益社団法人横浜市幼稚園協会  
会長 鈴木 浩

この度、令和2・3年度の幼稚園協会会長に就任いたしました鈴木浩でございます。横浜のこどもたちの健やかな成長に貢献できるよう、協会運営に力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は10月から幼児教育の無償化が始まりました。保護者の皆様にとってはとても家計にやさしい出来事ではなかったでしょうか。私たち協会も父母の会と連携しながら長年にわたり保育料の軽減を行政や議会にお願いをしていた立場であり、やっと実現ができ大変うれしく思っております。これは働いても働かなくてもその家庭にあった子育て支援の実現であり、このことが教育・保育の質につながるよう努力してまいります。

昨年度の終わりから新型コロナウイルスの影響により園の行事や活動の中止・延期を余儀なくされました。6月から段階的に開園し分散登園や自由登園をされ、ようやく新しい担任の先生や新しい友だちとの生活が始まりました。東日本大震災の時ですが、外あそびができなかったこどもたちはその後の生活に様々な影響があったと聞いております。今回も多くの問題を抱えることと思います。しかし、こどもたちの生活は友だちとのかわりの中でもともに育ちあっていくものであり、私たち大人がこどもたちの育ちや学びの環境をどのように保障していくかが大切なのではないのでしょうか。大人の新型コロナウイルスと歩む社会すなわち新しい生活様式が日常となり、これを受け入れてこどもたちの生活も新しいものになっています。この期間家庭で過ごす時間が多い中で、家族とともに過ごす時間の大切さにあらためて気付いたことや普通に園に登園ができていたことに感謝の気持ちが生まれました。特別な今年のこの時期にしか味わえない先生や友だちと生活することの喜びも今まで以上に味わってもらえたらと思います。小学校などでは夏休みの短縮や運動会等も多くの活動が再検討されました。幼稚園・認定こども園もできる限りのことを考え活動の計画をしてい

ると思いますのでご安心とご賛同をいただければと思います。協会として今年度は特に何が必要かを丁寧に皆様に伺いながら、どのようなサポートが今できるかを考え、加盟園や保護者の皆様の支援をしてまいりたいと思っております。

現在、横浜市内にある幼稚園・認定こども園はすべて私立です。各園は私立学校としてそれぞれ独自の教育方針や理念を持っています。そして新指導要領が今年度より小学校もスタートしました。2018年に幼稚園・認定こども園・保育所が一斉に指導要領改訂を今年は小学校が、来年は中学校、その次の年は高校と順次スタートするそうです。今回求められている姿が生きる力、学びの先を目指しているそうです。新しい時代を生き抜く資質が大切で社会に出てからも学んだことが生かせるようにと工夫されています。何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶかの過程も重視しているようです。この根っここのところにあるのが私たち幼児期の教育・保育ということになっています。これは各園が普段からしているこども主体の保育であり、幼稚園や保育所は今まで通りでよいのだと大学教授が講演されていたのがとても印象的でした。夢中になってあそびこむこと自体が学びの芽生えにつながり、そのために必要な知識や技能が身につく、また、思考力・判断力・表現力が育ち、学びに向かう力や人間性につながっていくそうです。このことが主体的で対話的な深い学びにつながり、まさにこれからの学校教育の基礎を成すと聞きました。ここにはもちろん私学の独自性が生かされ園が独自の考えで教育保育の工夫を重ねております。また、今年から横浜市においては、市内における多様な保育・教育施設において全ての保育者が保育の質の向上に向けて、子どもたちとの日々の関わりの基本となるものとして「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」を策定し、横浜のこどもたちの育ちをより明確にしています。今まで以上に育ちの連続性を意識したものとなっています。ぜひ一度ご一読いただけたらと思います。

新型コロナの影響で、生活するうえで心配や不安も多いかと存じますが、私たち協会加盟園や先生たちは父母の会と連携をとりながら横浜のこどもたちが笑顔になるために努力して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

# 横浜市幼稚園協会と横浜市とで取り組む

横浜市こども青少年局 子育て支援部

## 幼児教育と 子育て支援について

### 幼稚園協会と横浜市との連携について

横浜市にある幼稚園、認定こども園は全て私立であり、横浜の幼児教育を長年にわたり担っていただいております。幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであり、横浜の未来を担う子どもたちが、心身ともに健やかに育ち、感性と能力を十分に伸ばせるように、幼稚園、認定こども園の先生方と連携をとりながら、本市施策を進めています。

### ○幼児教育・保育の無償化

子どもたちに質の高い幼児教育の機会を保障することは極めて重要であり、消費税率10%への引き上げによる財源により令和元年10月から開始されました。



幼児教育・保育の無償化に伴い認定や給付の新たな仕組みが必要となり、円滑に無償化がスタートできるように、幼稚園協会との共催、園への質疑応答会も開催されました。

### 横浜市における幼稚園・認定こども園で実施されている主な補助事業

幼稚園、認定こども園に対して運営費等を補助することにより、幼児教育の振興や子育て支援等の本市の施策を推進しています。

### ○私立幼稚園等預かり保育事業(愛称:わくわく!はまタイム)

横浜市内の幼稚園・認定こども園において、働きながら子どもを幼稚園に通わせたいという保護者の方々のニーズに応えるため、朝夕の長時間保育を行う、横浜市独自の「預かり保育」にご協力いただいております。現在市内の約7割を超える園で実施しています。

また、幼稚園協会と共催で研修会を実施しており、保育内容の充実を図っており、実践事例集も発行しています。



○幼稚園等はまっこ広場・認定こども園・保育所子育てひろば  
未就学児の子どもとその保護者を対象に、園施設の地域開放、育児相談、育児講座、園児との交流保育、情報提供などの地域の子育て支援を行っています。



### ○幼稚園2歳児受入れ推進事業

長時間保育を必要とする2歳児を幼稚園で受け入れられます。2歳児から小学校入学までを同一の園で過ごせることで、安定した環境の中で、子どもの育ちに合った保育・教育を提供します。

### ○保育者確保の取組 ヨコハマ・バーン

幼稚園、保育所等の各団体が、幼児教育・保育の魅力を伝え、幼稚園教諭・保育士を目指していただくことを目的として、養成校の学生や中高生を対象とした催しを企画しました。令和元年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症のため、中止となりました。



## よこはま☆保育・教育宣言

今と未来を生きる子どもを育てていくために、横浜で大切にしたい子どもの育ちと学びや、保育・教育施設の全ての職員が日々の子どもとの関わりで大切にすることについて、幼稚園協会にもご協力いただき、先生方のご意見を踏まえて宣言を策定しました。

宣言に掲げた「安心できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します」「子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします」について、先生方と共に、保護者や地域の皆さんにも取り組んでいただきますよう、ご理解・ご協力をお願いいたします。

# 子どもたちが 教えてくれること

横浜市こども青少年局 保育・教育人材課  
幼保小連携担当課長 堂腰康博

本格的な登園・登校の再開から2週間が経過した本稿執筆時(7月15日)においても、コロナウイルス感染症拡大防止に向けて、緊張した状態が続いております。子どもたちの健康と安全を守りながら、豊かな園生活の日常を保障していく努力が、それぞれのご家庭や保育・教育の現場で続けられていることに対し、心からの敬意を表します。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は、春に入学を楽しみにしていた新一年生の小学校生活も一変させました。そこで、横浜市立学校では、誰もが安心して学校生活をリスタートできるよう学校再開スタートプログラムを実施し、「子どもたちの心のケア」と「人とかかわりづくり」を大切にして、まずは学校が安心できる居場所となるように、温かな風土づくりを目指しました。私たち幼保小連携担当も、子どもたちが待ち望んだ友だちや先生との出会い、新しく始まる教科等の学習や学級での生活など、これまで当たり前で経験できていたことを、3密になるから「できない」ではなく、「どうしたらできるようになるか」「何ならできそうか」等、学校とともに考え、実施するための手だてを探ってきました。

友達同士の話し合いは無理でも先生との対面なら対話的な学習はできること、作品をつなげたり並べたりすればコミュニケーションが図れて表現活動は豊かになること、ICTを活用すれば一人ひとりの興味・関心をきっかけにした生活科(合科・関連)の学習ができること等、子どもたちの姿を

通して教育活動の可能性を広げていく取組が見えてきました。ある小学校では、ヤゴをもらって育てた園時代の経験を思い出し、入学した学校のプールで採ったヤゴを出身幼稚園や保育園の園児たちに手紙を付けてプレゼントするという活動につなげた実践例を校長先生から教えていただきました。飼育した園では、羽化したトンボの種類を図鑑で調べたり、写真を学校に届けたりしたという後日談を園長先生から伺うこともできました。直接の交流はできなくても、こんなに豊かな心のふれあいができるということ、子どもたちは教えてくれました。



▲学校に届けられたトンボの写真

わたしたち保育・教育にかかわる大人は、このような状況下であるからこそ、子どもたちの力を信じ、遊びや学びを支えるために大切ことは何かを考え、実践していく必要があるのだと思います。子どもたちが、園・家庭での生活や遊びの中でたくさんのことを学び、自分で考えて行動できる力を身に付けていることを尊重し、今まさに、保育の質的向上や小学校の授業改善を図りつつ、一人ひとりの育ちと学びをつなげていくことが求められているのです。

本紙がみなさまのお手元に届けられた頃、園舎や園庭から聞こえてくる子どもたちの声は、日常に戻った時の明るい声になっていることを願っています。これからも、保護者の皆様や地域、各園や幼稚園協会の皆様と手を携え、ともに育てる意識を高めながら子どもたちの育ちと学びを支える環境を豊かにしていきたいと考えております。引き続きご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

子育て教育  
相談室より

## 「新年度は感染症予防とともに」

子育て教育相談員 大森 由紀

約3か月におよぶ外出自粛生活がゆるやかに明け、子どもたちの姿が再び街の中に戻ってきたことを感じながら、今この文章を書いています。いつもなら桜とともに始まる新学期を今年はアジサイが彩を添え、夏休みも、密をさける工夫をこらしながら過ごされたことと思います。

☆

私たちの当たり前前の日常を一変させてしまった新型コロナウイルス。残念ながらまだ（6月末現在）有効なワクチンや治療薬といったものはみつけれられていないようですが、その特徴は少しずつみえてきました。無症状でもウイルス量が多い人もいる、ということがひとつの特徴のようです。ですから、自分がかからないためだけでなく、自分でもそうと知らないうちに感染をひろげてしまわないために、「三密（密閉・密集・密接）を避けましょう」「換気をしましょう、マスクをしましょう、外から帰ったら手洗い・うがい、人と距離を保つようにしましょう」ということが対策としていわれるようになったのです。また、自粛生活が長引く中で各々の心身の健康を保っていくためには、バランスのとれた食事・睡眠・適度な運動などもすすめられています。

☆

ところで、みなさんはお子さんが幼稚園に入園する時期を迎えたとき、ご家庭でどのようなことを思われたでしょうか。…登園時間に間に合うためにはこの時間には起きるようにしなくちゃ、そのためにはこのくらいの時間には寝かせよう。…お弁当（あるいは給食）が始まるけれど、ちゃんと食べられるかな？栄養のバランスはどうかしら。…トイレ上手にできるかな？トイレのあとと外から帰ったら手を洗うのは家でもやっているから大丈夫。…今日はなにをして遊ぶのかな。…こうして並べてみると、幼稚園生活を迎えるころのお子さんとの生活には、食事・睡眠・運動など心身を健やかに保つ生活習慣や、

手洗いという感染予防に大切な第一歩が、きちんと備えられていることに気づきます。

予防としてのマスク着用というのは、幼児さんたちにはピンときにくいかもかもしれませんね。口の周りになにかあるという感覚がなじまないお子さんもいるかもしれません。ただ、そういうお子さんがずっとマスクをつけないかというところも限りません。大好きな先生やお友だちがしているから、とか、好きな肌触りのマスクだから、などのきっかけで身につけるようになることもあります。嫌がるお子さんには無理強いせず、まずはその他の感染予防を丁寧にしながらか、折をみてその子にわかる言葉でお話してみるとよいと思います。気温が上がってくるとともに、熱中症予防の観点からマスクの着用方法も見直しされるようになりました。どんなときにマスクがあるか、マスクをするとどんないいことがあるのか、などその時々でお子さんと意見を交わしてみると、新たな発見があるかもしれません。

また、最近の研究で、4か月を過ぎた赤ちゃんは両親にハグされると心拍間隔の増加率が高くなり、リラックスした状態になることがわかったそうです。ちなみに両親も自分の子をハグすると、子の月齢とは関係なく、ハグする前と比べて心拍感覚の増加率が高くなり、リラックスするそうです。

幼稚園児さんたちは、本来であれば多くの人と触れ合い、たくさんの出来事や物事に触れて成長していく年齢の子どもたちですが、まだしばらくは、人との距離を保ちながらの生活が続きます。ご家庭内では、頭をよしよしする、手をにぎる、ひざに抱っこするなど触れ合う機会をいつもより少し多めにとってみてはいかがでしょうか。

☆

対面しなくても、人とつながることができるのが子育てで電話相談のよいところでもあります。こちらがお手元に届くころには、また少し状況は変わっているかもしれませんが、これまでの生活のなかに自然に備わっていた感染症予防の習慣に、今回の新型コロナウイルス対策に必要とされることを足し引きしながら、「新しい生活様式」の中での子育てを一緒に考えていきましょう。（6月末執筆）

## 編集後記

令和2年度、新体制で横浜市幼稚園協会がスタート致しました。新型コロナウイルスの猛威により、緊急事態宣言が発令され、先の見えない不安が皆様にとっても大きいものだったことでしょう。これからはマスクや検温が当たり前、新生活様式を続けていくこととなります。感染の恐怖とも共存しながら、今できることを、今だからこそできることを大事に考え過ぎていきたいと感じています。これまでのようにはいなくても、工夫やひらめきが活かされる場がたくさん見つかるはずですよ。今年度も皆様と手を携えて子どもたちのために邁進いたします。

広報部 浅沼 郁子

### 子育て教育相談室

【相談日】	【受付時間】
毎週火曜日・金曜日 <small>（年末年始、祝祭日を除く）</small>	10時～12時 / 13時～15時



臨床心理士が、あなたと一緒に考えます

ひとりで悩まないで…

相談専用ダイヤル

045-534-8837

公益社団法人 横浜市幼稚園協会

http://www.kids-yokohama.or.jp  
TEL 045-534-8708